◇＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝[　第47号　]＝＝＝＝◇
唯契の窓　唯物論的社会契約論研究所月報　　　　　　2022年4月1日
◇＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝◇

三田でも桜の花が開花しました。ウクライナやミャンマー、イエメンでは、武力によって命を脅かされている人々がいます。世界の誰しもが美しい花を穏やかな心で眺められるよう、私達にできることは何なのか、考えて続けていきたいと思います。

●＝＝＝＝[　時事解説　]＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝●

今回はロシアのウクライナ侵攻を終わらせるための方策を考えてみたいと思います。

２月２５日に始まったロシア軍のウクライナ侵攻ですが、未だ収束の兆しが見えません。こうしている間にもウクライナでは多くの人々の血が流され、命が奪われています。何もできない自分がもどかしいという思いにとらわれます。

この愚かしい戦争の現在の状況について概観してみます。

【戦況】

膠着状態といえるでしょう。当初は圧倒的な軍事力の違いから短期間で終了するかと思われていたようですが、ウクライナ軍の大胆かつ粘り強い防衛作戦によってロシア軍の侵攻を阻んでいます。ウクライナ側は自ら橋を破壊するなどしてロシア軍の侵攻ルートを絞り込み、兵力の集中的な運用に成功しているように思われます。ロシア軍は限られたルートを使用して前進するしかなく、ウクライナ軍はそのルート上での待ち伏せ作戦で、ロシア軍にかなりの損害を与えているようです。また同様に兵站線（補給ルート）が絞られることから、ロシア軍は戦闘に必要な物資（弾薬・燃料・食糧など）も不足が生じていると伝えられます。２４日にはロシア軍の大型揚陸艦「サラトフ」をウクライナ軍が撃沈し、ロシア側の補給事情はさらに悪化しつつあります[1]。

一方で、こうした陸路での進行の遅れが、ロシア軍にミサイルや空爆などによる無差別攻撃を選択させる動機となっており、民間人の犠牲者の増加にもつながっています。

こうした膠着状態はロシア軍兵士の士気を損ないつつあり、ロシア側の高級将校にも複数の戦死者が出ている模様です。

戦火の拡大を防ぐ必要から、NATO 加盟国など欧米諸国からの直接的な軍事介入は現在のところ行われておらず、武器等の供与などにとどまっています。

---

[1] https://www.jiji.com/jc/article?k=2022032500414&g=int

【経済制裁の効果】

上記のように、欧米各国は直接軍事介入をしていませんが、アメリカなどが主導する形でロシアに対する経済制裁が行われています。特に国際的な金融決済システム(SWIFT)からの締め出し(２月２６日)[2]は、ロシアの輸出入に大きな打撃を与えています。ルーブルの価値が極端に下落したため、ロシア国内の物価は急上昇しており、「３月２５日時点のインフレ率は前年比１５．６６%」に達しています[3]。ロシアから出国するロシア人も増えており、鉄道でヘルシンキに到着したロシア人乗客はインタビューに「今何が起こっているのかを理解できているロシア人は本当に動揺している、すでに私の友人や同僚が何人かすでにロシアを離れたか、離れようとしている」と答えています[4]。外国資本の企業がロシア国内での営業を相次いで停止する[5]など、ロシア国内の経済状況の悪化は明らかで、ロシア国民にも相当な負担が強いられているようです。

【ロシア国内の状況】

ロシア国内の状況はどうでしょうか。既に開戦当初から反戦デモなどが取り組まれてきましたが、プーチンはこれを強権でもって抑え込み、マスコミにも弾圧を加えて言論統制を行っています[6]。Twitter や Facebook などの SNS も遮断され、「物言えぬ時代」が始まっています。この状況はまるで第二次世界大戦時の日本にそっくりです。大本営発表だけを信じて破滅の道を歩んだ痛恨の時代をロシア国民も体験することになるのでしょうか。

【ウクライナ侵攻の各国への影響】

今回の侵略戦争によって、第三国での影響も生じています。特に深刻な影響を受けているのは、主食の小麦をロシアやウクライナに依存している発展途上国です[7]。世界銀行によれば、ロシアとウクライナ産の小麦は世界の小麦の流通量の２５%を占めており、特にウクライナ産の小麦に頼っているガンビア、レバノン、モルドバ、ジブチ、リビア、チュニジア、パキスタン(いずれも輸入量の４０%程度をウクライナ産小麦に依存)といった国々は食糧難に陥る可能性があるとのことです。

また、経済制裁を課したヨーロッパやアメリカそして日本も、ロシア産の資源が入手できなくなりつつあり、国民生活にも影響が生じる恐れがあります。

---

[2] https://www.asahi.com/articles/ASQ2W2VRQQ2WULFA003.html

[3] https://jp.reuters.com/article/russia-inflation-idJPKCN2LR246

[4] https://news.tv-asahi.co.jp/news_international/articles/000248623.html

[5] https://www.fnn.jp/articles/-/328750
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000447.000043465.html

[6] https://www.tokyo-np.co.jp/article/163912

[7] https://jp.reuters.com/article/ukraine-crisis-trade-worldbank-idJPKCN2LE09L

特にヨーロッパ各国は天然ガスをパイラインによってロシアからの供給に依存しており、各国はエネルギー資源の備蓄や調達先の変更などを急いでいます。日本の経済活動にとっても、希少な鉱物資源（パラジウムなど）をロシアやウクライナからの供給に頼っている[8]ことから、長期化すればいずれ大きな影響を受けることになるでしょう。

以上、ウクライナ侵攻戦争の現状を見ました。この侵略戦争が長期化すれば何よりも貴重なウクライナの人々の命が失われ続けてしまいます。また経済が世界的につながっている現在、この戦争とは何の関係もない発展途上国の人々が食糧危機というこれもまた命にかかわる影響を受けることになります。従って早期の終結は世界的な課題、それも焦眉の課題という事になります。

ではこの戦争はどうすれば終わらせることができるのでしょうか。その答えはこの戦争の本質そのものをみればおのずと明らかになるでしょう。既に月報３月１日付に記しましたように、この戦争はプーチンの支持率維持のための戦争政策によるもので、ロシアとウクライナの利害対立はどこにも存在しません。この戦争の最大の矛盾は、プーチンの個人的な目的を国家機関によって実現しようとしているところにあります。従って解決策は一つしかなく、プーチンをロシア国家から切り離すことに尽きると言えるでしょう。そしてそれをなし得るのはロシア国民しかありません。

とはいえロシア国内の状況は、先に述べたように極めて困難なものとなっています。しかし、かつての大日本帝国と異なるのは、ロシア国民が主権者であるということ。これは非常に希望の持てることです。ロシア国民には合法的にプーチンを止める力があるのです。

ですから、この戦争を止めるためには、（１）まずロシア国民に真実を伝える事、（２）何をなすべきかを伝える事。この二点が唯一の手段[9]となります。

ロシア軍のウクライナで何をしているのか、経済制裁がなぜ課せられているのか、こうしたことをできるだけ具体的に知らせることが必要です。

またこのまま戦争行為が続けば、いずれ多額の賠償を背負うことになる事、たとえウクライナに戦争行為で勝利しても、世界からはロシアの戦争犯罪に対して、経済制裁が科され続けるであろう事なども伝えなくてはなりません。

また武力によらない「経済的制裁」がロシアを追い詰めていることを考えれ

---

[8] https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC037Y10T00C22A3000000/

[9] いわゆる戦争の手段としての情報戦として、強力な電波でロシアのテレビを乗っ取るとか、ハッキングによって介入するなどの手段もあります。しかし私たち一般市民はひたすら世論に訴える事、ロシアの知人などを介して口コミで宣伝すること、困窮するロシア国民に援助の手を差し伸べる事等しかできませんし、その方が平和のためには望ましいと思います。「平和を愛する諸国民の公正と信義を信頼して」。憲法前文の言葉です。

ば、それを継続するための努力を私たちもする必要があります。ウクライナの人々に対する支援も必要ですが、この戦争によって影響を被るであろう発展途上国の人々への食糧支援などにも取り組む必要があります。そのためには日本での食糧を増産するなどの国政レベルでの政策変更も必要でしょう。

私達がしなくてはならないことは、プーチンを非難する戦争反対の声をあげ続ける事、ウクライナへの連帯・支援を続ける事、ロシアの良心的国民を励まし続ける事（北方領土のロシア人への食糧支援なども近い将来必要かもしれません）、世界が協力して経済制裁を続けられるよう途上国への支援を強める事などです。この経済制裁が成功すれば、武力によらない平和の実現にむけた大きな一歩となるでしょう。平和を愛する日本人の踏ん張りどころだと思います。

●＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝●

☆＝＝＝＝［コラム］＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝☆
（休載）
☆＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝☆

次回の発行は５月１日を予定しております。